

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の学力調査の学級平均正答率は66.7%と目標値(67.5%)、全国平均正答率(67.7%)よりやや低い。また、基礎79.7%、活用40.6%と活用問題の正答率が全国平均正答率(48.8%)よりも低い。</li> <li>・「漢字を書く」「最近の出来事について話す」「文章を書く」の項目で全国平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字の習得が不十分であることや相手に伝わるように事柄の順序を考える力が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については、出題された作文を時間内で書く活動が不十分だったと考えられる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①語彙が少ないため、音読の際に一語一語の区切りや意味理解が難しい様子が見られること。</li> <li>②読書では、文字を追うだけで内容理解までいかず、進んで物語を読むことが難しいこと。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①文字定着と読み強化のための音読練習を家庭学習と隙間時間などに継続して取り組ませる。</li> <li>②挿絵から想像する、動作化することで言葉理解につなげ、楽しみながら身に付けられるようにする。また、多くの関連図書に触れることで興味関心を広げるようにする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書き取りについては、週に1回小テストを行っている。学期末にはまとめのテストを行い、90点以上取れるまで再テストを行っている。また、普段から既習の漢字を使って文章を書くように指導している。</li> <li>・日直は毎朝テーマに沿ってスピーチをしており、その他の児童には質問や感想を伝える取組を行っている。</li> <li>・文章を書いたりスピーチをしたりする際には、構成メモから文章を組み立てて書いたり話したりするように指導している。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①毎朝の日直スピーチを行う。また、聞き手は感想を発表する。</li> <li>②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。</li> <li>③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。</li> <li>②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。</li> <li>③筋道を立てて自分の考えをまとめることができているか、文章やスピーチの内容から確認する。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のスピーチにより、自分の意見や感想などをスムーズに言えるようになった。また、人前で発表することへの抵抗が少なくなった。</li> <li>・文章を書く際に習った漢字を使って書けるようになった。</li> <li>・2学期の漢字まとめテストでは、全員が90点以上を取ることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を組み立てることへの苦手意識をもっている。</li> </ul>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を一人で書く際に、不安そうな様子が見受けられたので、構成メモから自分で文章を組み立てて創作できる力を身に付ける。</li> <li>・既習漢字の復習を行う。</li> </ul>
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>自分の考えを文章や言葉で表現できる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の学力調査において、社会科の調査は実施していない。</li> <li>・写真や地図などを読み取り、課題を見いだすことに課題がある。</li> <li>・特殊な地域ということもあり、身近な地域の学習に関して学ぶことが難しい単元がある。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当項目なし。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や地図から課題を見いだすことができるように、複数の資料を比較する活動を多く取り入れている。</li> <li>・身近なことを題材にして、関心をもてるようにしている。また、インターネットを活用して授業を進めている。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①比較しやすい複数の資料を用意し、資料から課題を見いだすことができるようにする。</li> <li>②身近なことに置き換えたり、インターネットの資料や動画を活用したりして、考えを広げ、理解を深められるようにする。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分なりに課題を見付けて、調べたことをまとめることができているか確認する。</li> <li>②単元テストの「知識・理解」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。</li> </ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な出来事に関心をもち、実際に見学やインタビューをして自分たちの暮らしに関わっている人への理解を深めることができた。</li> <li>・単元テストの「知識・理解」の項目においてB基準以上を全員が達成することができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を見付けることや調べる方法を考えることが苦手である。</li> </ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料やグラフの適切な読み取りができるようにする。</li> <li>・資料や発問等を工夫して、自分なりに課題を見付けられるようにする。また、その課題をどうしたら解決できるのか調べる方法を考えたり、実際に調べたりすることができるようにする。</li> </ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分たちの暮らしに関心をもち、社会の一員として自分にできることを考えられる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度の学力調査の学級平均正答率は81.5%と目標値(74.0%)、全国平均正答率(75.6%)より高い。</li><li>・「10000までの数・分数」の問題の正答率が低かった。4位数の数の表し方や数の相対的な大きさについての理解が不十分であったことが分かった。</li><li>・「はこの形」に関する問題にも課題が見られた。直方体の辺や面の数への理解が不十分であることが分かった。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①文章を読んで問われていることを理解することが難しいこと。</li><li>②「5は1と4」「5は2と3」のように、「片方が1増えたらもう一方は1減る」法則を見付けても、その後の学習に生かせず毎回始めから行う様子が見られること。</li></ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①文章から図に表したり、ヒントとなる言葉に印を付けたりする。</li><li>②タブレットなどの活用で繰り返しの反復学習を行い、具体物も使いながら理解を促す。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・問題の場면을絵や図、写真などを用いて視覚的に示している。</li><li>・文章問題に取り組む際に、問われていることやヒントになる言葉の色を変えたり、アンダーラインを引いたりして板書をしている。</li><li>・自分の考えを言葉や式を使って書き表し、説明する機会を設けている。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①問題場면을視覚的に示したり、具体物を操作したりする活動を多く取り入れる。</li><li>②授業の導入時やベーシックタイムに既習内容を復習する時間を取る。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①文章問題において正しく立式できているかを確認する。</li><li>②学期末テストで80点以上取れているか確認する。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大切な言葉や数字を見付けて、図に表すことで視覚化し立式・解答する力が高まった。</li><li>・学期末テストで全員が80点以上を取ることができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・タブレットやプリント学習を通して復習を行ったが、学習が終わると忘れてしまうことが多く、定着に時間がかかる。</li></ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既習内容の復習を繰り返し行う。</li></ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学習したことを積み重ね、問題解決できる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和7年度の学力調査において、理科の調査は実施していない。</li><li>・今年度から理科の学習を始めたばかりなので、科学的思考がまだ身に付いていない。</li><li>・科学的事象への興味・関心は高いが、理由や根拠を探ろうとする意識が低い。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当項目なし。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、毎時間や各単元の最後に振り返りの時間を取っている。</li><li>・「学習のめあて」、「問題」、「予想」、「結果」、「まとめ」などの授業の流れを明確にすることで、一連の科学的思考の流れを身に付ける。また、科学的事象への理解を深まるように、児童が既に知っている事項でも、理由や根拠を問いかけている。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</li><li>②授業の流れを明確にして進め、理由や根拠を問いかけて、自分で課題を見付けられるようにする。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①単元テストの「知識・技能」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。</li><li>②単元テストの「思考・判断・表現」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・単元テストの「知識・技能」、「思考・判断・表現」の項目において全員がB基準以上を達成することができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・問題を問いかけた際に、調べ方や解決方法を自分自身で探求する姿勢を高めることができなかった点が課題である。</li></ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実験の結果に対する考察も自分の言葉でまとめられるように穴埋め式等から支援していく。</li></ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>日常から課題を見付け、解決に向けて考えられる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの児童が主体的に活動に取り組んでいるが、活動内容によって好き嫌いや集中力にバラつきが見られる点が課題である。音楽能力や感性が優れている児童が多い反面、活動の趣旨を理解するまでに時間がかかることも多く、学習のめあてをいかに分かりやすく明確に伝え、スムーズに学習活動に取り組める工夫や授業の組み立てが必要である。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。</li> <li>器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないよう、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に器楽の活動に対して前向きな児童が多いことから、リコーダーを主体として、小さなことでもできたことをきちんと評価し、次のステップに必要な練習について個人レッスン形式で伝えていく。歌唱や、鑑賞についても同様であり、まずは「自分はできるんだ」という自信をもたせていく。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①年2回のアンケート実施</p> <p>②授業ごとの振り返り，題材のまとめの活動の徹底</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①結果の分析及び，それに基づいた授業の改善</p> <p>②振り返りの結果から，技能の成長を児童が実感できるような評価を行い，学習の定着化を図る。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して主体的に音符の階名や，リコーダーの運指を調べて取り組むことが増えた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技能を習得するまでの量的な反復練習や，振り返りによる学習内容の定着には，まだ課題が残る。</li> </ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>反復練習による技能の向上</li> <li>個人レッスン形式による「できる」ようになるための支援</li> </ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで課題に粘り強く取り組み，思いや意図を表現できる児童</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が造形遊びや表現の活動そのものを楽しんでいるが、題材の趣旨を理解しきれていないまま、自分のやりたい遊びに終始してしまう場面があることが課題。また、自分のイメージに技能が追いつかないことで落胆してしまったり活動に消極的になってしまったりする児童も少なくないため、造形遊びと絵や立体に表す活動で変化をつけるなど授業の組み立てを工夫していく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】自分が何をどのようにすればよいのか分からず、なかなか制作を始められない児童がいる点が課題である。小学校入学前までに習得した既成概念が影響しているのか、いわゆる「可愛い絵」や「カッコいい形」をまねる傾向があり、独自性を追求する作品がなかなか見られない点が課題である

【改善策】授業の導入で本時のめあてを提示し、教科書の該当箇所を全員で確認することで、制作方法や作品例を知り、円滑に制作を始められるようにする。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】図画工作の授業が始まるという時点で気持ちの高揚があるため、導入時にめあてを理解したり必要な説明を聞いたりすることが難しい児童がいる。楽しみな気持ちや湧きあがったイメージを尊重しながらも、めあてを意識できるような導入時の言葉かけや板書の工夫、授業の組み立てを継続していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

授業の始めに授業の流れとめあてを示して確認することを徹底し、授業終わりの振り返りをワークシートに記入して自分の取り組みを思い出しながら、次回に向けてやるべきことや考えていることを言語化してまとめることを習慣化できるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

<検証方法>

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・自分らしく発想したことを基にイメージをふくらませ、絵や立体に表す活動や造形遊びだけでなく、鑑賞の活動も楽しみながら取り組むことができた。

<課題>

・題材の趣旨をつかみきれずに自分のやりたい遊びに夢中になってしまうことがある。説明を聞いて軌道修正できることもあるが、発想の広がりや逸脱の違いについて区別する力を育てることが課題である。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・図画工作の授業の中で活動を楽しみながら学ぶことと、自分がやりたい遊びや好きな遊びをすることの違いを理解し、児童が納得して取り組めるような導入や展開の工夫をする。その際、強制力が強すぎるなど表現活動が好きだという気持ちや楽しさを奪ってしまわないような配慮も必要である。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

題材の趣旨を理解し、活動を楽しむ中で見方や感じ方を広げることができる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和7年度1学期授業評価アンケートでは、「体育の授業は好きか」や「体育の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。</li><li>令和7年度6月実施の体力テストにおいては、男女ともに全国平均値を上回っている。しかし、結果を見ると児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ゲーム遊びなどで複数チームを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくいこと。</li></ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>様々な場面で共同学習を取り入れ、多様な考え方や取り組み方に触れられるようにする。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>技能のポイントを絞って伝え、児童同士でアドバイスし合う場を作る。</li><li>楽しんでできるような場や方法を設け、スモールステップで達成感をもたせる。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①技能のポイントを絞ったり、可視化したりして分かりやすく提示する。</li><li>②振り返りカードなどを活用したり、友達同士でアドバイスし合ったりする場を作る。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①授業中の動きを見取る。</li><li>②振り返りカードや活動後の振り返りの様子を見取る。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>技能のポイントを絞って説明したことで、意識するポイントが明確になり、それぞれが運動技能を高めることができていた。</li><li>毎回の授業で目標を立て、振り返りを丁寧に行ったことで、自分の成長や課題が明確になり、自身の運動技能を高めることができていた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>単元によって、児童の意欲や苦手意識に差が出ていた。</li></ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>どの単元でも全員が達成感をもてるように、スモールステップで指導をしたり、基礎練習に時間をかけたりして指導の工夫を行っていく。</li></ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>運動することを楽しみ、自身の運動技術を高められる児童</p>	